

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	模範解答

【「話すこと・聞くこと」の問題】

【会話の内容から質問の言葉を考える問題】

1 次の文を読んで、あとの問いに答えましょう。

まゆみさんが、南町図書館の館長さんにインタビューをしています。

まゆみ 「こんにちは。わたしは、南小学校の北川まゆみです。きょうは、館長さんに図書館のことを聞きにきました。よろしくおねがいします。はじめに、ここではたらいっている人は、何人いますか。」

館長 「わたしもふくめて全員で四十人です。多くの仕事があるので、みんなで手分けをしてはたらいています。」

まゆみ 「たくさんの方がはたらいっているんですね。ここではたらいっている人は、
A

館長 「図書館での仕事は、本のかし出しや本の相談、図書館のそうじなどをして
います。来てくれた子どもたちに読み聞かせもします。」

まゆみ 「いろいろな仕事があるんですね。
この図書館には
B

館長 「この図書館は、日本のお話や外国のお話、絵本などたくさん本があります。とくに、子ども向けの本がたくさんそろっているので、たくさんの子
どもたちに来てもらい、本を読んでほしいですね。」

まゆみ 「わたしも本を読みに来たくなりました。たくさんのことを教えていただき、
ありがとうございました。」

一 インタビューの A と B の部分で、まゆみさんは、館長さんにどんなことを聞いていますか。 に当てはまるように、まゆみさんが言った言葉を考えて書きましょう。

レベル6

(1)

「たくさんの人がはたらいているのですね、ここではたらいている人は、

A どのような仕事をしていますか。

※同様の答えは正答とします。

(2)

「いろいろな仕事があるのですね。この図書館には

B どのような本がありますか。

※同様の答えは正答とします。

まゆみさんのしつ問に対して、館長さんが答えています。つまり、まゆみさんのしつ問の内容は、 A B の後の館長さんの話から考えることができます。



埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	模範解答

【「書くこと」の問題】

- 1 Aさんは、国語の学習でいろいろな遊びについて調べ、そのルールについてまとめました。メモ①②③の中から、あなたが遊んでみたいものをえらび、〈注意〉をまもって書きましよう。

レベル7

メモ

①二色おぼろげなゲーム

- ①まず集まった人を、「青組」「赤組」「白組」の三つに分ける。
 （色は何色でもよい。人数によっては、チームの数をふやすこともできる。）
 ②青は赤からにげ、赤は白からにげ、白は青からにげる。タッチをされたら、そのじんちに連れていかれる。
 ③決められた時間をたたかい、相手をつかまえた数をもっとも多かったチームが勝ちとなる。

②聞き耳ゲーム

- ①四〜五名のグループになり、聞き取り役を一名と言葉を言う人に分ける。
 ②言葉を言う人たちでテーマを話し合い、テーマにあった言葉をそれぞれ決める。
 （例）テーマがぐだもの・言葉を言う人が四人の場合
 Aさん↓りんご、Bさん↓バナナ、Cさん↓パイナップル、Dさん↓みかん
 ③合図で、言葉を言う人が決めた言葉をいっせいに言う。
 ④聞き取り役は、聞こえた言葉から、テーマを当てる。
 ⑤聞き取り役がテーマを当てたら、聞き取り役の勝ちとなる。

③ろくむしゲーム

- ①二十メートルほどはなれた場所に二つ円をかく。
 ②二人のオニと、子（オニいがい）を決める。
 ③二人のオニは、子をねらってボールを投げ合う。子はオニが投げるボールをよけながら、はなれた円の間を行き来（おうふく）する。
 ④ボールに当たらずに「おうふくしたら」「いちむし」、二おうふくしたら「にむし」・・・となり、「ろくむし」まで行けば子の勝ちとなる。

- 〈注意〉
- 1 二段落で、五行以上、六行以内で書くこと。
 - 2 一段落目には、遊んでみたいと思った遊びの名前をメモ⑦⑧⑨の中からえらんで書くこと。
 - 3 二段落目には、えらんだ理由を書くこと。

正解の判断について
 ・一段落目には、メモ⑦⑧⑨の遊びの中から選んで書いていること。
 ・二段落目には、ゲームの内容について理解し、遊んでみたい理由が五行以上六行以内で書いていること。

〈三色おにごっこゲームの解答例〉

	わ	た	し	が	遊	ん	で	み	た	い	の	は	、	三	
	色	お	に	ご	っ	こ	ゲ	ー	ム	で	す				
	理	由	は	、	ふ	つ	う	の	お	に	ご	っ	こ	と	
	は	ち	が	い	、	お	い	か	け	て	ば	か	り	だ	と
	他	の	チ	ー	ム	に	つ	か	ま	っ	て	し	ま	う	と
	こ	ろ	が	楽	し	そ	う	だ	か	ら	で	す			

〈聞き耳ゲームの解答例〉

	わ	た	し	が	遊	ん	で	み	た	い	の	は	、	聞	
	き	耳	ゲ	ー	ム	で	す								
	理	由	は	、	一	度	に	た	く	さ	ん	の	人	の	
	言	葉	を	聞	け	な	く	て	も	、	何	人	か	の	言
	葉	を	聞	き	取	っ	て	、	テ	ー	マ	を	当	て	ら
	れ	そ	う	だ	か	ら	で	す							

〈ろくむしゲームの解答例〉

	わ	た	し	が	遊	ん	で	み	た	い	の	は	、	ろ	
	く	む	し	ゲ	ー	ム	で	す							
	理	由	は	、	動	き	が	ド	ツ	ジ	ポ	ー	ル	み	
	た	い	で	分	か	り	や	す	い	し	、	よ	け	な	が
	ら	走	る	の	は	楽	し	そ	う	だ	か	ら	で	す	

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前
模範解答		

【物語を読んで答える問題】

1 次の文を読んで、あとの問題に答えましょう。

（※川の中の魚の子供と母親の様子があがられている場面です。）

花は、水の上に浮かんで、流れ流れてゆきました。しかし、後から、後から、花がこぼれ落ちてきました。

「どんなに、おいしかろう。」といって、三びきの魚の子供は、ついにその花びらをのんでしまいました。

その子供らの母親は、その翌日、我が子の姿を見て、さめざめと泣いたのです。「あれほど、花びらをたべてはいけないといったのに。」といいました。

黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたので、黒い子供は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたので、黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたので、黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になってい

【中略】

（※町の人間の子供と母親の様子があがられている場面です。）

町では、子供たちの母親が心配いたしました。

「どうして、そう毎日川へばかりゆくのだえ。」と、子供たちをわかりました。

「だって、赤い魚がいるんですもの。」と、子供は答えました。

「ああ、昔から、あの川には赤い魚がいるんですよ。しかし、それを捕らえるとよくないことがあるというから、けっして、川などへいってはいけません。」と、母親はいいました。子供たちは、母親がいったことをほんとうにしませんでした。どうかして、赤い魚を捕まえたものだど、毎日、川のふちへきてはうろついていました。

（出典 小川 未明 「赤い魚と子供」）

（1） _____ アの「それ」とは何のことですか。三字で書きぬきましょう。レベル6

「それ」の前にある言葉をさがします。捕らえるものは「赤い魚」であることがわかります。

赤
い
魚

(2) ーイの後、子供たちがどうしたのかをまとめた文の□に当てはまる言葉を文中からさがし、それぞれ四字で書きぬきましょう。レベル6

母親が言ったことを

ほんとう

にはせず、赤い魚を捕まえるために

川のふち

ちをうろついた。

ーイの後の子供たちの様子を読みとります。

・子供たちは、母親がいったことをほんとうにしませんでした。

・(子供たちは) どうにかして、赤い魚を捕まえたものだど、毎日、

川のふちへきてはうろついています。

という内容から、□に合うように言葉を書きぬきます。

(3) さめざめと泣いたのです。の理由として、もつともふさわしいものを次の1～4の中から一つえらびましょう。レベル6

- 1 子供の魚の色が変わってしまったから。
- 2 赤色や白と赤の斑色の花が流れてきたから。
- 3 子供の魚が、病気になってしまったから。
- 4 三匹の子供のうち、一匹がいなくなってしまうから。



1

理由をたずねる問題です。

理由を表すときには、「～から」「～ので」「～ため」などの言葉を使って書かれることが多くあります。

この文章中では、「黒い子供の体は、いつのまにか、二ひきは、赤い色に、一ひきは白と赤の斑色になっていたからです。」とあり、子供の魚の色が変わってしまったことが理由だとわかります。

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前	模範解答

【同音異義語の漢字を文脈に即して正しく使う問題】

1 次の文の _____ のカタカナを漢字で書く場合、正しいものをあとの1～4の中から、それぞれ一つえらびましょう。

週〓回る、めぐる 習〓何回もくり返し行う 終〓終わる、終わり
集〓あつめる 「ひとところ」に集める」の意味をもつ「集」が当てはまる。

(1) シュウ中して勉強する。

- 1 週 2 習 3 終 4 集

4

(2) 暗くなる前に、早くカエル。

- 1 返る 2 買える 3 帰る 4 代える

3

返る〓もとにもどす 変える〓今までとちがったものにする
帰る〓もとの場所へもどる 代える〓あるものに、ほかのものの役目をさせる

【漢字の音読みと訓読みを理解する問題】

2 次の _____ 線部の漢字の読み方を書きましょう。また、「音」と「訓」のどちらの読み方か、書きましょう。**レベル7**

(1) 広間に集まる。

読み方

ひろま

音・訓

訓

(2) 広大な土地。

読み方

こうだい

音・訓

音

中国から入ってきた発音を元にした読み方が「音」です。

もともと日本にあったことばに漢字を当てはめた読み方が「訓」です。

【文の構成を理解する問題】

3 次の文の主語・述語を _____ 線部1～4の中からそれぞれえらびましょう。**レベル7**

(1) きのう わたしは 友達と 児童館で 遊んだ。

主語

2

述語

5

(2) 水族館で 見た 魚には、青く 大きな ひれが あつた。

主語

6

述語

7

主語は、「だれが（は）」「何が（は）」に当たることばです。
述語は、「どうする」「どんなだ」「なんだ」に当たることばです。

【文と文のつながり方と接続詞の働きを理解する問題】

4 次の□の中の文を、意味を変えずに、二つの文にします。

□に入る言葉を、あとの□の中からえらび、二つの文にして書きましょう。

雨がふりそうな天気だが、かさを持っていない。

れい たくさん走ったので、足がいたかった。

たくさん走った。

だから

足が痛かった。



雨がふりそうな天気だ。

しかし

かさを持っていない。

だから||前の文から予想される文が次に来ることを表す。

つまり||前の文についての説明を表す。

しかし||前の文と反対になるような文が次に来ることを表す。

また||前の文に、後ろの文をつけくわえることを表す。

ここでは、「雨がふりそうな天気」に対して「かさを持っていない」と反対の内容が続くため、「しかし」を用います。

だから つまり しかし また

【指示語の役割を理解する問題】

5 次の文の□は、何を指していますか。文章中より書きぬきましょう。

レベル6

近所のおばさんが、水玉もようのワンピースを作ってくれた。次の日、わたしはそれを着て、友達の家遊びに行った。

こそあど言葉は、文章中の言葉を指し示すときにも使います。ここでは「それ」に「着る」が続くため、直前の文の「水玉もようのブラウス」を示していると分かります。

水玉もようのワンピース

反対の意味の言葉にはいろいろな組み合わせがあります。

例 「上る」と「下る」

「行く」と「帰る」

【言い切りの形に直す問題】

6 □の言葉と反対の意味の□を、書きましょう。

電車が動く。

止まる